

ヨウ  
用

牧場に張りめぐらした<sup>サク</sup>柵の象形で“はりめぐらす”が本義。

「用心」は従来、心を用いると解いているが、“心を張りめぐらす”と解くのがよい。柵のどこに破れがあっても、中の牛は逃げてしまう。どこにも破れがないように周囲のすみずみまで心を張りめぐらすのが「用心」である。柵は牧場になくてもはならぬものゆえ、“必要”“役にたつ”“使う”の意がある。

ヨウ  
甬  
トウ

マは子の頭と同じ。<sup>サク</sup>柵の上に頭の見えている形。柵の様子を見に、見回っていることを表わしている。

(柵を)張りめぐらす

(柵にそって)行く

(柵の周囲を)まわる

ヨウ  
踊

足でぐるぐるとまわる

おどる 例 舞踊

注 踊りというものは輪を作って、ぐるぐる回りながら踊るものである。

ヨウ  
× 俑

“踊る人形”という意味の字。手足が動くようになっている人形で、死者とともに葬ったもの。孟子に『始めて俑を作った人は、その子孫が必ず滅びるであろう』と言って、俑を作った人を憎んだことが書かれている

ヨウ  
× 涌

水が湧り出す

わく 例 涌出・噴涌・涌泉

注 地中から、地下水が湧き出ることである。

ユウ  
勇

湧き出る力

地下水の湧き出るように、からだの中に溢れ出てくる力(溜り水のように、使えばなくなってしまうような力ではなく、使えば使うほど<sup>みなぎ</sup>漲ってくるような力)

ヨウ  
× 湧

ユウ 涌と同音同義に用いられる

ユウは慣用音。例 湧出・湧泉

ツウ  
通

(トウ) 柵(ガードレール)にそって道を行く

うまくとおれる(通の本義)。漢音トウ

すらっととおる [例] 通行・便通

[注] 通は、単に“歩”や“行”の意でなく、それがすらっとうまくいくことである。

[注] 通人とは、世の中の万事を知りつくした人という意味。

ヨウ  
桶

トウ 木を張りめぐらして作った容器

おけ

[注] <sup>ゆトウ</sup>湯桶読みの桶(漢音はトウ)

ツウ  
痛

(トウ) からだに張りめぐらされた神経に感ずる病気

いたい [例] 苦痛・激痛

[注] 痛みそのものは病気ではない。からだのその部分が病気に犯されつつあることを通信するものである。

痛 = 病気を通信

ひどい [例] 痛快・痛感・痛烈

参考 <sup>ジュウバコ</sup>重箱読みと<sup>ゆトウ</sup>湯桶読み

漢字は、二字以上組み合わせられ、熟語として使われることが多い。この場合、上を音読すれば下も音読し、上を訓読すれば下も訓読するのがふつうである。

ところが、古くからの習慣で、重箱のように上を音読し下を訓読するもの、湯桶のように上を訓読し下を音読するものがある。これらを俗に“重箱読み”“湯桶読み”と言う。

[例] (重箱読み) <sup>ヤクバ</sup>役場・<sup>チュウふる</sup>中古・<sup>ニクヤ</sup>肉屋・<sup>ダイどころ</sup>台所・<sup>ホンバ</sup>本場  
(湯桶読み) <sup>みホン</sup>見本・<sup>ばショ</sup>場所・<sup>ふるホン</sup>古本・<sup>みブン</sup>身分・<sup>くみキョク</sup>組曲